

小田 昭子

学校名：横浜市立岡津小学校 担当教科：2年生担任

#### 1. 今回のカンボジア研修における目的やねらい

私が開発教育という分野を知ったのは2008年で、「対立から学ぶワークショップ」(主催：開発教育協会)がきっかけだった。対立や問題を解決する方法は、人間が知恵を出しあえば、一つでは無く無限にあるという内容のプログラムを実際に体験し、大変驚いた。子どもたちに体験を伝えたところ、学年は3年生であったが、教室内で対立がおきると、周りに子どもたちが集まり、傍で話を聞き、子どもたちだけで解決できるようになった。また、保護者の方にも話したことで、知恵を出し合って助け合う素晴らしさを伝えることができたように思う。開発教育という分野から、日本の子どもや大人が明るく元気に過ごせることを知った。ただ、自分自身が飢餓や貧困による世界の現実に対しては無知で、教室で子どもたちになかなか反映することができなかった。

飢餓や貧困で苦しむ人々を支援する現場では、何が起きているのかを知り、日本の人たちが元気になるような学びにつなげたい、というのが今回のねらいであった。

カンボジアの子どもたちや大人の様子、また援助団体の援助する様子を直接見て、子ども・保護者の方々に伝えることで、日本の人に「助け合うこと・一人ひとりがしっかりと大事にされること」の素晴らしさを感じてもらいたいと考えた。

#### 2. 目的やねらいの達成度

多くのカンボジアの子ども・大人、多様な援助団体からお話を聞かせて頂け、大変有意義なものであった。援助の方法を皆で考え、知恵を出し合う様子からは、前向きなパワーをひしひしと感じられた。一人でも多くのカンボジアの子ども・大人を助けようと、精力的に活動している様子は、日本の子どもだけではなく、大人の人にこそ伝えたいと思う内容であった。

また、クラスの子どもの質問に、「毎日、何をしているときが一番楽しいか知りたい。」「どんなスポーツをするのかな。」というものがあつたが、それに答えてもらう十分な時間がとれたことも大変有り難かった。

#### 3. カンボジアから学んだこと

自分があまり知らなかった貧困の現場で、すでに多くの日本人が援助し続けていたことに驚かされた。知ることから、自分にできることを探し、行動に移す青年海外協力隊の話からは、遅さを感じられた。また、カンボジアの人の中には、日本に留学できた方がすでについて、カンボジアの教育のために日々活動に取り組んでいるお話を聞いたことも、教師海外研修ならではの体験であった。人材育成が必要なカンボジアで、現地の人たちと支援団体の人たちが共に学び合い、協力して活動する様子から、カンボジアという国の未来の可能性を感じることもできた。

#### 4. 研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

本年度の担当は2学年であるため、子どもの興味関心が湧きそうな身近なことから、教材作りをしたい。今後の担当学年によっては、話し合いを深くすることのできるテーマもあると思われる。子どもの笑顔のためには、まずは大人が笑顔一杯で過ごせることの重要性を、今回の研修では実感することができた。教材は、日本の子どもたちのためだけではなく、ぜひ、保護者に向けたものとしても考えたい。

#### 5. 研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

JICA 事務所を訪問でき、お話を伺うことができたこと。自分一人でカンボジアに出かけていたの

では、見られないような支援現場を数多く見られたこと。カンボジアの貧困の現実を、現場の職員の方々から直接聞いたことに、本当に感謝しています。

また、インドシナ難民が神奈川には多く住んでいるという事実すら知らなかったのが、神奈川のことをもっとよく知らなくては、と思いました。

#### 6. その他研修全般を通じての感想・意見など

事前研修・海外研修・事後研修という流れが、非常に良いと思います。

事前研修では、カンボジアの概要も学んだはずですが、現地に行くとなんか新しい発見が一杯ありました。また、7名の先生方の中には、カンボジアの子どもがクラスにいるという先生がいて、カンボジアとの接点がなく、開発教育という観点から参加した私にとって、興味深かったです。

現地では、車内で校種の違う先生方とお話したことからも、学ぶことがたくさんありました。

#### 7. 今後の本研修参加者へのアドバイス等

事前研修は、たくさんの方からお話を聞けたり、体験型であったりと盛り沢山です。あまり緊張しすぎず、わくわくした気持ちで参加すると思います。現地では、自分の感じ方と他の先生の感じ方の違いを発見でき、考えも深まって、面白いです。10名の人間で毎日話をし続けるというのもこの研修の醍醐味かもしれません。

